

平成18年度八重山群島病害虫発生予報第5号(8月予報)

8月の気象予報

要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	高	並	並～多

(平成18年7月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	28.9	31.5	26.8	248.5	236.4

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

8月の発生予報

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

八重山群島

1 水稻

2期作に向けた種もみ消毒及び育苗管理について

- a 種もみは塩水選したものを用い、うす蒔きにし、充実した苗の育成に努める。
- b いもち病、ごま葉枯病、ばか苗病等の種子伝染性病害は播種前の種もみ消毒で防する。さらに、ウンカ類、イネミズゾウムシ等を防除する箱施用薬剤を利用する。

移植期におけるスクミリンゴガイの防除について

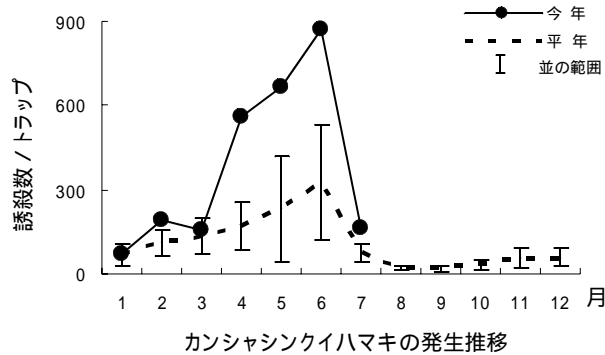
- a 基肥の窒素分として石灰窒素を施用すると殺貝に有効である。散布は、碎土、湛水(水深2～3cm)後3～4日目に行い、散布後2～3日間は落水や掛け流しをしないようにする。田植えは10日以上放置後、代かきして行う。
- b イネの被害は移植直後の幼苗ほど被害を受けやすいので、常発地では中・成苗移植を行う。
- c 本種は水中でしか摂食しないため、移植後は水深をできるだけ浅水(水深1cm以下)で管理する。

2 さとうきび

(1) メイチユウ類

発生程度 : やや多
予報の根拠

7月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は163頭(前年102頭、平年75頭)と平年より多かった。



防除上注意すべき事項

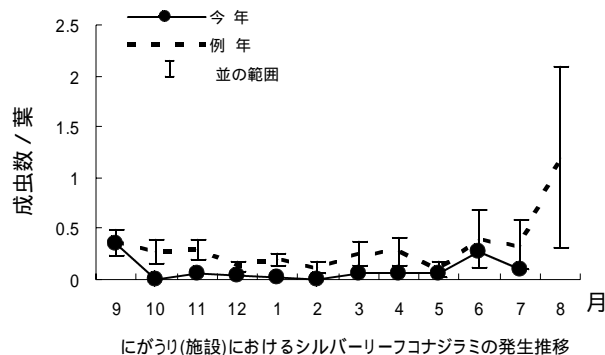
- ふ化した幼虫は、夏植された苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動し、芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯を起こさせ茎を枯死させる。
- 夏植の生育初期の加害による芯枯防止を狙い、食入初期の幼虫を対象にした重点防除を行う。
- 防除は植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

3 にかうり(施設)

(1) シルバーリーフコナジラミ

発生程度 : 並
予報の根拠

- 7月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.02頭、例年0.34頭)と例年並であった。
- 例年、7月から8月に増加する傾向がある。



防除上注意すべき事項

- 発生源となる施設周辺の雑草を除去する。
- コナジラミの飛来侵入を防ぐため、施設の入口、天窗、側窓には防虫ネット等を張る。また、苗による持ち込みを防ぐ。
- 摘葉・摘芯後の残渣は成虫の発生源となるので、ビニール袋などに入れ施設外に持ち出し処分する。
- 圃場観察や黄色粘着トラップでモニタリングし、早期防除に努める。

4 マンゴー

収穫後の病害虫防除対策について

- a 開花期から収穫期までは薬剤による病害虫防除が出来ないことから、新葉には炭疽病、軸腐病、チャノキイロアザミウマ、マンゴーキジラミ、ドクガ類、マンゴーフサヤガ、マンゴーハフクレタマバエが、成葉にはマンゴーツメハダニ、カイガラムシ類等の病害虫が多く発生する。
- b 収穫後、結果枝を切返して発生する夏秋梢と花痕枝が次年度の結果母枝となることから、本母枝の充実度は来年の収量・品質に大きく影響する。この時期の病害虫防除は、栽培管理とともに重要である。
- c アザミウマ類や、ハダニ類、カイガラムシ類などの微小害虫は一般的に風雨に弱いことから、収穫を終えた施設は、樹勢回復も兼ねて、早めに被覆ビニールを取り除く。
- d 剪定を行った後の残渣は、病害虫の発生源となるため、施設外に持ち出し処分する。
- e 病害虫発生技術情報 1号（平成18年 8月 1日付け）参照。

マイナー作物に係る農薬取締法上の経過措置の取扱いについて

平成14年の農薬取締法改正に伴い実施されてきたマイナー作物等に対する経過措置については、平成18年7月末日をもって、終了しました（平成18年3月14日付け農林水産省プレスリリースにて公表済み）。平成18年8月1日以降に使用した場合は、農薬取締法の農薬使用基準違反となりますので、ご注意ください。

台風対策について

台風の到来シーズンとなりました。台風による強風、多雨により農作物の病害の発生が懸念されます。到来の前後に病害対策を行い、被害を軽減しましょう。

1. 到来前

- ・ネット栽培では、ネットを下ろした後固定し、強風による折損、傷みを防ぐ。
- ・大型の施設では風雨が吹き込まないように側窓を閉める。
- ・かんきつ等露地の果樹は殺菌剤を散布しておく。
- ・早めに収穫できるものは済ませておく。

2. 通過後

- ・停滞水は立枯等病害の発生を助長するので速やかに排水する。
- ・罹病した茎葉、果実等は病害の発生源となるので片づける。
- ・露地では天候の回復を待って薬散する。
- ・施設内は側窓等を開け、換気をよくする。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
北 部 駐 在	〒905-0019 名護市大北1-16-15 TEL 0980-51-1537 FAX 0980-51-1538
宮 古 駐 在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八 重 山 駐 在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157